

報道関係者各位

2026年11月1日
株式会社EFC
代表取締役 志水 陽平

北海道愛別町で官民共創のまちづくりプロジェクト 「HOME MADE TOWN」が始動！



「手づくりの、まちづくり」を合言葉に、地域の人と新たな仲間が、暮らしと仕事の未来を共につくる

北海道愛別町にて、地域の人々と町に新たに関わる人々がつながり、住み続けたいと思えるまちを共につくる「HOME MADE TOWN（ホームメイドタウン）」プロジェクトが始動します。

本プロジェクトでは、これまでの愛別町の地域おこし協力隊制度の活用方法を大きく変更し、地域の事業者や団体と連携した企業委託型にすることで「手づくりの、まちづくり」を推進するプロジェクトです。愛別町森林組合や愛別商工会、株式会社EFC（以下、EFC）と連携し、森づくりや地域資源の活用、移住・起業につながる環境づくりを進めます。

このプロジェクトで大切にしたい価値観は「ワクワク」と「挑戦」です。慣例や慣習にとらわれず、今ある暮らしや仕事を大切にしながら、一人ひとりの「やってみたい」を持ち寄り、愛別町のこれからを育てていきます。

プロジェクトの背景

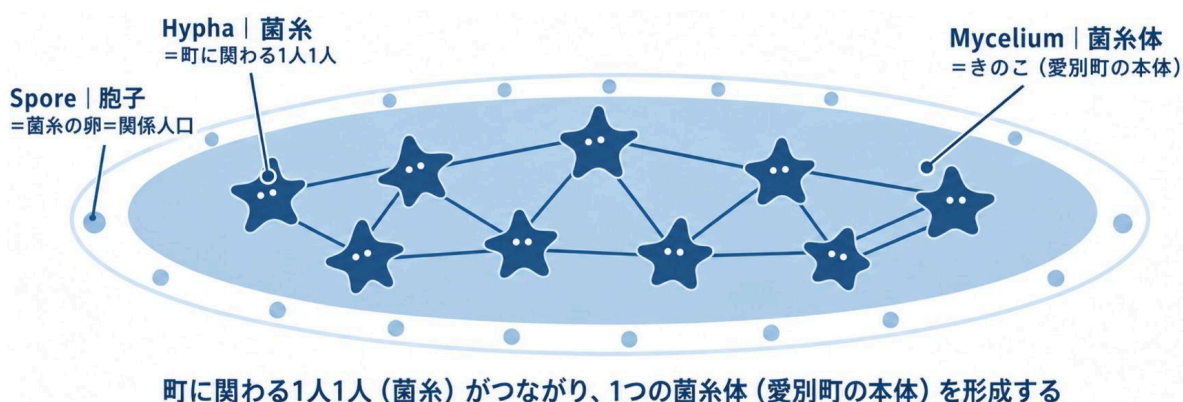
愛別町では、地域の産業や暮らしを次の世代につなぐため、担い手の育成や、新たな仕事・交流を生み出す取り組みが求められています。地域おこし協力隊の受け入れにおいても、具体的な活動内容に加え、地域の人々と関係を築く機会や、任期終了後の暮らし・仕事を見据えた支援が大切になります。

HOME MADE TOWNでは、役場と受入団体、伴走支援を担うEFCが何度も対話やワークショップを重ね、地域として目指したい未来と、共に取り組む活動を整理してきました。そしてこれから新たに加わる仲間の関心や経験も生かしながら、地域で挑戦を続けられる環境をさらに整えていきます。

「HOME MADE TOWN」に込めた思い

まちの未来は、そこに暮らす人や関わる人の、小さな実践の積み重ねから生まれます。

森の仕事を知ること。地域の人のお話を聞くこと。町にある素材で商品をつくること。新しい暮らしを始めたい人の相談に乗ること。一つひとつの行動をつなげ、地域の中に新たな可能性を育てていく。その姿勢を「HOME MADE TOWN」というプロジェクト名に込めました。



プロジェクトのシンボルは、愛別町を象徴する「きのこ」の菌糸をモチーフにしています。菌糸が広がり、つながっていくように、町民や事業者、これから町に関わる人々が出会い、互いの力を生かし合うまちを目指します。

2つのプロジェクトで地域おこし協力隊を募集

1. 森を育て、地域の暮らしにつなげる



愛別町森林組合と連携し、森林整備の現場で知識や技術を学びながら、森と地域の暮らしをつなぐ活動を進めます。森林整備への従事に加え、町産材を活用した製品づくりや、木育・体験活動、森の仕事を伝える情報発信などを検討しています。現場での経験を土台に、森林資源の新たな活用や、将来の担い手育成につなげます。

2. 人が集い、暮らしと仕事がつながる場をつくる



愛別商工会と連携し、交流拠点「蔵 KURARAら」を中心に、地域の人と移住を考える人がつながる仕組みづくりを進めます。

町内事業者へのヒアリングや、仕事・空き家情報の収集、移住・起業相談の窓口づくりなどを通じて、愛別町で暮らし、働くための情報や関係をつなぎます。また、地域の声や需要を踏まえた特産品・コンテンツの企画にも取り組む予定です。

地域おこし協力隊の募集についての詳細は[公式サイト](#)をご覧ください。

まちの人と想いを伝えるマガジン「Mycerium」創刊



プロジェクトの思いや、愛別町に関わる人々の声を届けるマガジン「**Mycerium**(マイセリウム)」を創刊。

タイトルは、きのこの「菌糸体」を意味する言葉に由来します。菌糸体のように、愛別町に関わる人たちがつながり合い、新しい価値や、住み続けたいと思えるまちを育てていく。その願いを込めた一冊です。

誌面では、地域で暮らし、働く人々へのインタビューなどを通じて、日々の営みや、まちの未来への思いを紹介する予定です。プロジェクトに関心を持つ方が、愛別町で共に活動する人々を知り、自分自身の関わり方を考えるきっかけをつくります。

この本に共感した人たちと出会い、一緒に「手づくりの、まちづくり」を進めていくことを目指しています。

販売・配布場所などの詳細は、決定次第、公式ウェブサイト等でお知らせします。

今後の展開

